
来るべき者

人類を見守る長兄

そして彼の使命



この一連の文章は、キリストや他の名前で知られ、世界の教師として現れることが期待されている神聖な存在ー「来るべき者」を、積極的に待ち望むすべての人々のハートに火をつけ、マインドを照らすことを目的としています。

世界の転換期にある今、愛のアバターとは何者か、その使命は何かーについて、私たちは理解を深める必要があります。この文書には、[ハイラーキー*](#)のメンバー達が覚醒した人類に理解してもらいたい「来るべき者」の内容が反映されています。

2022年10月

第1章

自分を驚かせるものを、あなたは見ることになる

キリストの物語は、2,000年前から人類と共にあります。死んだはずの人間も含めて、多くの人々を癒す奇跡的な力を持ち、権力に立ち向かい真実を語る力があつた人物の人生です。彼の癒しの力と霊的な威力によって、ナザレのイエスが超自然的な力を持っていたことは、当時の見識があつた人々には明らかでした。

こうして神性なる存在、イエスキリストとして知られた方の、地上での旅が始まりました。彼の治癒力以上に注目すべきことは、彼を脅威に感じたローマの統治者によって、十字架に架けられたことでしょう。世界から彼の存在を排除する必要性を感じるほど、統治者は混乱します。しかし、彼が弟子たちの前に、再び霊的な姿で現れることは、誰も予想できませんでした。

死にまつわるキリストの勝利、すなわちキリストの復活は、「人は霊的に生まれ変わる」という概念を、人類に授けたことです。これが、初期の教会運動を起こした使徒たち、そしてキリストの教えに触れた人々の原動力となりました。その教えとは、霊的な愛、平和、正義、謙遜、正義、純粋な心に関するもので、今では世界中に広まり続けています。しかし、地球の内なる政府が期待していたほどの影響をもたらさませんでした。もし大きな影響をもたらしていたら、人類の歴史は大きく異なっていたでしょう。

イエスが使徒たちに語った「わたしについて来なさい」という言葉の真の意味を、当時の人々は理解できませんでした。神聖な人間の足跡を辿るこ

とが、何を意味するのか。その理解が抜け落ちていたのです。そして自己変革の条件は明確ではありませんでした。そのため、何世紀にもわたって福音書が世に広まるにつれ、低俗さを抑制し、より良い信者となるための行動改善の教えへと変りました。ついには布教のために、一般的にうけとれる内容にすり替わり、精神性の変容という考えは見失われたのです。

「隣人を自分のように愛しなさい」これが人間の在り方の改善に発せられた言葉だと、人類が理解していたなら、この世界は一変していたでしょう。しかし、「私に従いなさい」は、キリストの側近の弟子たちだけに発せられた言葉だと誤解され、何世紀にもわたって誤って解釈されたのです。しかし、イエスのメッセージは、人間の本質を変えよう—という急進的な呼びかけでした。

そのメッセージは、当時の大衆には時期尚早でしたが、現代の大衆にも依然として通じないかもしれません。しかし、進化の車輪は、この方向へと活発に動いています。彼の模範に従うことは、新しい世界の成熟した市民となることです。来るべき時代、ワールドティーチャーとして人類のもとに帰還するイエスキリストは、人間のパーソナリティの穢れを、魂の黄金の光に変性させるために、精神的成長の道を明らかにするでしょう。彼は人類の変容を促進して、新しい地球を照らす光となるのです。

キリストが人類に再び近づくとき、あなたは驚くものを見るでしょう。その慈愛に満ちた表情に、人々は彼の実在を感じ、引き寄せられた全ての人々のハートを照らすでしょう。地球生命の創造者であり管理者である惑星ロゴス、そして惑星の愛の中心として知られる霊的ハイラーキー。両者から発せられる愛を、彼は光に変えて放射するのです。この本質的なメッセージを受けとる全ての人々のハートに火をつけるために、愛と智慧の大

師方、そして数えきれないほどのハイラーキーのメンバーも、彼に伴われて帰還するでしょう。

～新しい地球が生まれようとしている。私たちの声を聞く者は、先駆者となり、私たちを観る者は、この言葉の真意を知るだろう。この新しい世界は、愛の輝きによって、人類を呼び覚まし、そのハートを目に見える形にするだろう。恐れることなく、これから日の光に現れるものを喜びなさい。この光に目を奪われ、人の心を癒す力に驚かされるだろう。その準備を整えなさい～

* 霊的ハイラーキー ドキュメントの最後までスクロールしてご覧ください

説明。



第2章

人類の偉大なる長兄

大きな試練を経験して、痛みを耐えてきた人々は、魂の闇夜の後に、光が差し込むことを知っています。しかし、その光はどのようなものでしょうか。その源は人間の経験を超えたところにあるため、従来の言葉で伝えるのは難しいのですが、一ある地点から別の地点へ、源から目的地へ流れる霊的なエネルギーの流れ—と説明できるでしょう。それは魂の王国から発するイルミネーションの流れであり、人間の魂、ハイヤーセルフに流入します。パーソナリティ（低我）の妨げがないとき、あるいは、深い試練に

耐えたことで防御が取り除かれた結果、このイルミネーションは魂の内側へと流れ入ることができます。

これまでの歴史で、人間の魂に高次の光を流入させる入口は、あまり多くは存在していませんでした。一般的な人間の低我が、流れを遮断していたのです。たとえば現代の問題点は、地球の靈性や高次の存在への信心が薄れていることでしょう。高次元のリアリティーへの信心がないところでは、自分の行動の結果と向き合わず、人間の低位の本能を抑制する必要はありません。これは人類の多くが陥っている状態です。それが人類救済のために「偉大なる長兄」が出現せねばならない理由です。

その理由を説明するためには、「救済」を再定義し、キリストのアイデンティティと使命を明らかにする必要があります。キリストは、「不朽の叡智」を学ぶ者には「人類の年長の兄」として知られています。くわえて、惑星地球の生命体である「世界の主」が定めた「人類の目的」に初めて到達した人間です。地球意識が宿る大きな王国、そして小さな生命体が住まう王国。その二つの王国の「仲介者」になるよう、人類は運命づけられています。その人類進化の枠組みで、最も進化した存在がキリストなのです。

キリスト教では神の子と呼ばれましたが、人類の救済、すなわち神聖なる愛の道を明らかにするために、地上の苦しみの淵に、キリストは遣わされました。彼の使命は、自分自身を物質界の支配を超越する者として宣言させ、人間の注目を世俗的な権力から、靈性の権力—神の愛の中心から地上を統治するカー—に向けることでした。彼の言葉は、ハイヤーセルフを目覚めさせ、人々が愛し合うことで、すべての創造主の愛—癒しをもたらす神聖な潜在能力—を発揮するよう呼びかけるものでした。

キリストの超自然的な能力は、神性が人間の問題に関与するようになったことを明らかにしました。天上の神はもはや「天にいる」だけでなく、人間の生活に関わるようになったのです。キリストは人間の心に、神性なる人のイメージを刻みました。それは人間の権力者から…ではなく、神から指令を受ける人、自分のためではなく誰かのために生きる人、神の王国のビジョンを実現させる意志を持つ人…というものです。彼のビジョンは、互いを思いやり、一人ひとりの必要に応え、すべての人の内にある最高のものを養う、魂の王国でした。山上の垂訓と言われる聖書のエピソードのなかに、新しい王国の市民の資質が説明されています。

これが 2000 年前に神が遣わした者、キリストと呼ばれたラビ、イエスキリストです。そしていま、再臨を準備しているキリストとは、何者でしょうか？ 使徒たちによって、ローマやユダヤの歴史家たちによって、記録されてきたパレスチナでの存在とは違って、これから私たちが伝えることには、確実な証拠はありません。これから伝えることを受け入れるか否かは、あなた方の魂の光に委ねられています。

キリストの生命がパレスチナにあった肉体を離れたとき、その霊は大気の中に蒸発したわけではなく、地球の生命体が存在する次元へと向かいました。稀な例外を除いて、その次元は一般的な人類には見えません。その目的地をイメージするために、遥か彼方にある広大な「修道院」を思い浮かべてみてください。その建物が放つ光に、あなたは引き寄せられ近づきます。そうすると、建物が土ではなく、純白の光—黄金の糸の流れが集まった光—で築かれていることがわかるでしょう。

この「修道院」には白い衣服に身を包んだ人たちが、円陣のなかに座っています。中央には円形の祭壇があり、その上には乳白色の炎が入った大き

な鉢が置かれています。この鉢の上には燃えるような三角形の光が立ち上っています。その光のなかに、三人の智慧の大師の面影が観えるでしょう。彼らは、いま人類にもっとも影響を与えている三つの光線—「力の光線」「愛と智慧の光線」「秩序の光線」—そのアシュラムの大師方です。そのトライアングルの光の中心には、キリストのバラ色の炎が燃え盛っています。

十字架にかけられた肉体から昇天したキリストの霊の炎は、この惑星の霊的ハイラーキーの最高位に戻り、地球生命の第五王国、目覚めた人類にまもなく明らかにされる「霊の王国」に安息しました。肉体の拷問に耐えながら、神の意志に従ったことで、悟りを開いた存在としての準備を整えたのです。霊性の光によって人類の復活を見守り、新時代に覚醒する魂たちの器に、その光を流入させるために。

キリストの受難は、歴史的に解釈されている「贖罪」のためだけに起きたものではありません。肉体を含むパーソナリティーすべてが、神の進化計画への奉仕に与えられていることを示し、高度に進化した模範を、人類に提供するためにも起きたのです。キリストの真の使命は、地球の生命の源である天の父に帰還する道を示すことでしたが、人間の心に残ったのは「父の意志」に従った自己犠牲の姿です。彼のより高い意図は、光による自発的な変容と変性によって、神との一体化のために帰還する道を示すことでした。

キリストは霊的ハイラーキーの長として、照らされた魂たちの集団を統率してきました。これらの魂たちは、展開する進化計画で、果たすべき役割を担っており、この極めて大切な瞬間に奉仕するために準備を整えてきました。キリストから放出される想念エネルギーは、側近である大師たちに

よって解釈され、偉大なる光の「修道院」にいる白服の存在方のテレパシーによって拡散されるでしょう。

キリストは、人類で初めて、神聖な地位に就くことができた最初の人間です。その神聖な役割を担ったがために、彼は大衆の怒りを買ひ、当時は異邦人のような存在となりました。しかし、キリストが再び地球に姿を現すときは、進化の弧を上昇しはじめた先駆者たち、共同体である魂たちが、キリストが人類にもたらすものを歓迎するために必要な光明を、十分に獲得しているでしょう。



第3章

キリストの真の使命

幾多の時代を越えて、キリストのアイデンティティは人類にとって不可解のものでしたが、近代の物質主義のなかで、その謎はさらに深まりました。そしていま、私たちが水瓶座の新時代に入るために、この存在にまつわる謎を解き、人類と長兄との間に横たわる分離の解消が重要になってきました。惑星意識の向上にむけて協働する人類に、共通認識の基盤は必須です。

あなたがキリストとして知っている存在は、地上のすべての人々よりも高度に進化しています。彼の意識は、パレスチナで生まれる前、地球を含む太陽系のさまざまな惑星に滞在することで進化しました。一部の人々が信

じているように、「どこからともなく」現れたわけではなく、ユダヤ人の血統、その生物学的な子孫であっただけでもありません。地球を司る惑星ロゴスによって、必要な進化に奉仕するために、彼は召集されたのです。過去の転生から得た深い経験をもとに、その時代の人類を理解し、ナザレのイエスとして生物学的に生まれた場所と人々の生活に順応できるよう生まれてきたのです。

彼のルーツはこの太陽系の別の場所にあります。弟子たちの魂、そして癒しと学習のために引き寄せられた多くの信者たちと、深い絆を結びました。この体験は、彼自身が捧げる惑星神と霊的ハイラーキーへの奉仕です。太陽系の生命体である「太陽のロゴス」、そして、太陽系の一部である地球の「惑星生命」—その進化に貢献することが、キリストが享けたもうした使命でした。太陽系と惑星、その進化という目標のもと、より高い神性を人間の内に呼び起こすという、長期にわたる努力を開始したのです。

キリストの使命は、霊的な愛の体現によって人類の進化を促進することでした。この点で、地球生命におけるキリストの地位は独特です。彼の兄弟である仏陀は、高次の智慧の光を、人類にもたらすために地上に現れましたが、キリストの使命は愛の体現によって、人々のハートに開放をもたらし、彼らが高次の光を吸収できるようにすることでした。

キリストが地上に現れたのは、人類の霊的帰還の道を開くためであり、この道を歩むことで起きる結果を、模範として示すためでした。この道程が始まるのは、ハートが開いて神性の愛を受けとる時、ほとぼしる愛の中で真理の光を受けとった時です。この偉大なる開放が起こらない限り、人間存在に関する本質的な真実は把握できません。生命を脅かす苦しみに直面

しても、それが前世から持ち越した果実の収穫だと認めるには、まずは神の愛に気づくことが大切です。

キリストが盲人を治癒したとき、人々は盲人、またはその両親、どちらが罪を犯した結果なのかと尋ねました。その時からカルマの法則を伝えることは、彼の使命の一部になりました。帰還する世界教師としても、カルマの法則—転生を越えて正しい行動に調整される神の法則—を教えることは、彼の使命の中核となるでしょう。このような学習は、愛の土壌なきところでは不可能です。愛に満ちた神の守護がなければ、人々はこの真理に反発するでしょう。放射されるキリストの愛が、神の守護としてのマントの役目を果たします。

転生する前のイエスが滞在していた惑星生命の一つが金星であることは、一部の人々によって推論されています。その惑星での人生において、彼の魂は神聖な愛の安定した流れに自身を委ね、満たされていました。金星は地球にとって「魂」の存在です。それが人間の魂とパーソナリティーの関係と同じであることは、秘教徒たちによく知られています。その神聖な本質は、低我の意識から始まり、長い時間をかけて成熟していきました。高次の自己—ハイヤーセルフは、自分自身のエネルギーを吹き込むために、低我の準備が整うのを待っているのです。

人類の魂と、そのペルソナ（パーソナリティー）の間にある溝を、霊的な愛の普及によって埋めることが、"来るべき者"の使命です。そのために、人類を襲う数々の災厄が重要な役割を担ってきました。結晶化した行動や思考のパターンを、災厄が破壊することで、より高いリアリティーへと心と身体が解放されるのです。この解放の始まりに、惑星ハイラーキー、そしてキリストのアシュラムは愛を注ぎ入れています。人類の進化において初

めて、惨めさによって解された人の心に、高次の真理の教えが、はっきりと伝わるでしょう。



第4章

愛する能力の回復

キリストが生きた時代、人々は外にある「世界」という概念を、ほとんど理解していませんでした。彼らの世界は、自分たちが住んでいる土地と、徒歩やロバで移動できる土地、それに通りすがりの商人から得た他の民族や文化に関する知識、占領しているローマ当局の情報などで、ほぼ成り立っていたのです。当時のユダヤはかなり統一された民族であり、宗教的統治の拠点であるエルサレムの神殿が、ユダヤ人の日常生活における法律や儀式を定めていました。

ナザレのイエスはラビとして、また預言者として大衆に認知されていました。その彼が、当時の慣習に従わないと宣言したことは、ユダヤ人とローマ人の双方にとって衝撃的なことでした。父なる神は、より高い真理に目覚めさせるために自分を遣わし、その天の父の導きのもとに自己統治を確立すると宣言したのです。そして、彼の宣言は異端行為と見なされ、磔刑が正当化されました。

パリサイ人やサドカイ人から見たイエスの罪は、彼らが定めた教えや生活規則を否定したこと、くわえて奇跡に思える癒しによって信奉者を増やしていったことでした。彼の神性がユダヤとサマリヤの人々に認められていることは、宗教指導者たちの脅威となったのです。古代の祈りと教えを唱えながらも善を実践しない聖職者たち、そしてローマが築いた残忍な権力に加担する人々、彼らの偽善を暴露したのが、キリストの内を流れる活きた精霊でした。

古代パレスチナと現代の生活には類似点があります。始まりは、宗教対立が引き起こした紛争でしたが、実際にはユダヤ人の宗派間、そして残酷な権威主義に絶望して救世主を待ち望むようになった人々による政治対立でした。イエスは果たして、旧約聖書の預言者によって告げられた予言を成就させる救世主なのか、それとも宗教権力に取って代わろうとする野心的なラビなのか。当時のユダヤ人の間で、イエスの存在は大きな争点となりました。

今日の世界でも、宗教上の争いや政治的対立が激化し、支配階級や権力者の残忍さや背信性が認識されつつありますが、昔と違うのは、小さな地球に住む人類は一つであるという認識が広まりつつあることです。そして、人間が生きる条件に刷り込まれた共通のパターンが認識されつつあります。人々は容易に事実に基づく世界の現実を認識、熟考して、自分で結論を出す能力を持つようになりました。人間が制定した法律が多くの人々を苦しめ、ピラミッドの頂点に立つ人々への忖度であったことに、多く人は気づいています。そして、この認識は世界中に広がっています。

世界中の人々が、権威主義的な支配に立ち向かい始めています。独裁者の支配を容認する人々でさえも、現在の体制の転換を求めています。統治者

は支配している市民生活に全く貢献せず、奴隷労働によって富を得た古代のファラオのように、人々を支配して奴隷のように働かせ、その結果、金儲け主義が世界を支配するようになりました。

この支配下で失われたものは、愛です。愛の欠如は、家族から始まる集団と世代を破壊しています。厳しい物質文明で生計を立てねばならない重圧は、我が子を愛する親の力を低下させます。家を暖めるか、それとも空腹を満たすか。自分の子供を育てるか、他人に育てさせるか。あるいは魂のない画面の前に座って心身を麻痺させるか。多くの人々がこの選択を迫られています。家族は崩壊し、若い世代は自ら命を絶とうとします。金銭への欲望、そして愛する力の低下によって、社会は内側から病んできています。

この失われつつある愛の力を回復させ、愛に付随する真理を識別する力を目覚めさせるために、キリストは地上に帰還します。人の心の傷に光をあて、真理の認識力を養い、その傷を癒す働きが、彼に託されました。“輝き”という言葉は、彼を通して、または彼に同行する人々に映し出される神の栄光を表現するには、まだまだ不十分な言葉です。彼らは霊の王国の愛と叡智を遮ることのない光を放射し、キリストが世界教師としての使命を開始する水瓶座の時代の誕生のために、その土壌を耕すのです。



第5章

人生を一新させるほどの愛

キリストの愛とは「分離不能」として説明される、一体化の状態を知る体験のことです。このすべてを包み込むような愛の性質は、生死の淵で出会ったキリストについて語る、無数の臨死体験の証言の核心でもあります。そして、魂や真の自己、内なるキリストの愛に触れた…と証言する者たちの体験があります。それは、血の通った肉体での一体化の体験です。彼らは、肉体があっても霊的な愛に触れることが可能だと保証します。この一体化は、人間のパーソナリティーの分離意識を、完全に超越するのです。

キリストが肉体をもって物質界に戻ってくるとき、彼の本質が視えるようになるでしょう。物理学者や秘教徒が、今おぼろげに感じている微細な光の世界を、エーテルの目で観るのです。それは例えると、臨死体験した人が遭遇する「天国」の感覚に似ています。愛に満ちた放射が、大気中に大量に降り注ぐことで、キリスト意識の覚醒に近づく全ての人々の生活に、光が浸透するでしょう。最もパワフルな放射は、キリストと認識される存在から流れ出て、うっとりさせる芳香として、洗練された魂を呼び覚まします。

エーテルの光の流れ、その動きがもたらすものを伝える言葉を探すのは、容易ではありません。なぜなら、多様な色、色調、強度、リズムがあり、その振動と周波数は、無数の形状と方向性をもたらすからです。私たちに利用可能な言葉は、あなたの想像力を喚起するための、単なる類似です。なぜなら物理的密度の次元は、あなた方にはほぼ見えていないからです。

たとえばオーロラは、生命の背景にあるものを、最も漠然とした感覚で提供しています。

キリストの愛に満ちた光を感じるには、温いお風呂や温かい水の中で泳ぐときの感覚を思い浮かべてください。それは、心身を癒す温もりに浸かる感覚です。あるいは厳しい寒さの日に、太陽の暖かさを感じることを思い出してください。これらの身体的な感覚を思い出しながら、あなたの人生で純粋な愛を経験した瞬間を思い浮かべてください。それはあなたが何者であって、何ができるか、または誰かに何を与えたか—の評価ではなく、ただただ自分の本質的な存在ゆえに、真っすぐに愛されたと感じた瞬間のことです。あなたがこの温もりの源を融合させ、自分の存在全体を飽和できたら、来るべき時代にキリストの存在、その臨在の影響を感じられるでしょう。

生命活力を失い、地上生活で懸念されるようなことが神の愛によって制圧される領域が天国である—と考える人たち。新時代は、彼らが考えるような「天国」にはなりません。それは、肉体意識を進化させる人類を待ち受けているものではありません。臨死体験で「天の王国」にアクセスする人々の多くは、人生を短時間で振り返りながら、愛の海に漂う体験談を語ります。この振り返りによって、犯した罪が明らかになります。そして臨死から魂が肉体に戻ったとき、人生を修正する方法が明らかになり、カルマの帳尻を合わせられるのです。進化する人類の未来の体験は、また違ったものになるでしょう。

地球の生命の波がエーテルの海に上昇するにつれて、キリスト意識の光の夜明けが魂のなかで起き、人間生命の進化は継続されます。そして、霊性の成長のための厳しい試練が始まるでしょう。キリストと、彼のアシュラ

ムは、真理の光を求め、その光の強さに耐えられる全ての人が出逢える教師、ガイドとして存在します。しかし、少しだけの魂意識の目覚めでは、この輝きに耐えるのは難しいでしょう。私たちの説明している光はとても眩しく、多く人は時が熟すまで目を背けることを余儀なくされます。霊的ハイラーキーと協力して人類の進化に奉仕することを選んだ者には、前途は険しいものになるのです。

いろいろな意味で、微細なエーテル体において、人間生命に違いは起きませんが、密度の高い肉体が失われることで、進化の流れが加速するでしょう。エーテルの光は、思いやりの光を容易に吸収できるようになります。しかし同時に、長年の人間の分離意識が引き起こした傷、つまり暴力と破壊の根源である内的な傷を露呈して、暴力と破壊の元凶であるアストラル界にサーチライトをあてるでしょう。エーテルチャクラの透明性は、問題がある次元を明らかにするのです。

世界教師の光の強さに耐えることができる人は、アストラル偏極からメンタル偏極へと急速に進み、より大きな善のために、意志の力を利用できる状態に進歩するでしょう。いくつもの転生にわたって魂に刻まれた破壊的なパターンを克服するには、探究者が利用できる変容のリソースを、メンタル的に把握することが必要です。そしてキリストは、この言葉の一般的な理解を伝えるだけでなく、彼の愛によって、苦しんでいる魂に洗礼を授けるでしょう。自分を変容させたいと願う人は、人生をリセットするのに十分なパワフルな愛に浸れます。そのエネルギーは、神聖な愛のアバターと、その親しい仲間たちによって、何倍にも拡大された魂の愛なのです。



第6章

キリストの必要性

水瓶座時代の惑星進化のゴールは、魂意識の展開であり、それはマインドの力を超越し、ハートの力を使うことです。人間のマインドは、世界の多くの人々に驚異的な進歩をもたらしましたが、魂に生来備わっている愛から切り離され、地球上の生命に大規模な破壊をもたらしました。

数百万年にわたるメンタル体の進化をたどると、畏敬の念を抱かせるような発展を発見できるでしょう。動物よりもわずかに発達した原始人の痕跡から、人工知能を造り、人間活動の代替ができる AI を開発ができるメンタル能力の発達まで、人類の進化は至っています。

膨大な時間の流れの人間の行動の進歩をたどると、周期的な文化文明の高い発達に、いくつかの輝きを見つけられます。しかし、メンタルの能力が高まるたびに、戦争と破壊も相応に発展してきました。進化するメンタル体は邪悪な目的に向けられ、多くの大衆が殺人マシンにさせられました。この原稿を書いている時点では、世界の指導者たちは核兵器によって、民族や国をまるごと消滅させる準備をしています。

しかし、この原稿は警告ではなく、キリストの再臨に備える必要性のために書かれています。キリストの再臨は、宗教の予言の成就—世界中の人々が共有する救世主の再来—ではないことを、読者は理解することが重要で

す。それは人類生存のために、絶対に必要なことなのです。神の出現がなければ、人間心理に残る殺戮本能が、人類を滅亡に追いやるでしょう。

ここで重要なのは、多くの文化や宗教で、キリストは異なる名前と呼ばれていることです。実際に、すべての世界宗教は、すべてが失われたと思われるとき、混沌と無法が支配するとき、人類が衰退して絶望的になり高次元の助けを求めるとき、神の化身の出現を期待する伝統があります。

これまでのキリストとの違いは、その使命の目的にあります。前世で愛のアバターであった彼は、宗教的背景や民族的出身にかかわらず、また罪の有無にかかわらず、すべての人間を受け入れるという神聖な能力の体現でした。彼の愛は、あらゆる人間の境界や国境を越えて放射されました。彼が同行者と共に再臨するとき、彼らの普遍的で包括的な愛は、すべての生命を破壊しかねない卑しい本能を超越する方法を教える、その基盤となるでしょう。

このような卑劣な本能、特に対立や戦争につながる本能は、恐怖に根源があると認識されるでしょう。人間の原初的な恐怖は、肉体の死、自己意識の消滅にあります。キリストは、人間が考えるような死は存在しないことを、彼自身の生きた実在をもって立証するでしょう。その真実の光は、愛の光で万物を照らす精妙な世界への入口なのです。彼はまた、人間の二つ目の恐れ―見捨てられる恐怖心、裏切り、孤立―を侵食する霊的な愛の力を明らかにします。分離の痛みは、人類が誕生して以来、怒りと暴力の温床でした。

世界教師の使命において、キリストは分離状態の根本的な原因を照らし出し、それに打ち勝つ手段を明らかにします。つまり秘教的な真理が表に現

れるのです。その真理とは、例えば一、人間の一生とは、何度も転生してきた魂の現れであり、無限の闘争から抜け出すために「真理の光」を目指す長い旅路だと知ること、一などです。魂がマインドに光を授けることで、探究者は永久に続く転生の苦しみから脱し、人類に光と愛を与える者となるでしょう。これらすべてのことが、生きとし生けるものに恩恵をもたらす新しい地球で、新しい文明の創造のために、キリストによって教えられます。



第7章

すべての者の教師

智慧の大師になるには、人間として避けられない試練や苦悩を越え、人間の理解を超えた意識の領域に入ることが必須です。その特徴のひとつは「理解を超えた平和」、つまり神の意志と一致することで達成される、完全なる平和の状態です。霊的ハイラーキーは、外界に影響されることなく、地球の進化計画を策定して、その展開を導きます。この霊的存在の働きを監督しているのが、ハイラーキーの長であるキリストです。彼はまもなく、この平和な場所を離れて、より低い次元へと帰還する予定です。

光のハイラーキーに受け入れられる条件のひとつは、私たちの惑星生命に対する責任を引受ける意志があることです。その準備となる人生体験は、無害性の表現、自己と家族に対する責任、奉仕を通じて公益への献身一などです。人間の限界を魂の意識が超えるとき、霊的な領域への扉が開かれる一と言われます。この高い領域に入ると、惑星次元での展望が表れ、共同責任という新しい基盤が生成されるでしょう。

霊的ハイラーキーの持ち場には、境界線がありません。地球は一つの有機体として、人類は単一の種として認識されています。地球が自転する太陽系という広大な宇宙空間には、宇宙規模の秩序が存在します。周期的に繰り返される惑星運動には、不変的な秩序が観察されますが、惑星進化を司るほどの存在者は、時間の経過と共に変わらぬものはない一と知っています。その存在者の魂には、地球のような惑星生命であれ、人間のような生命種であれ、すべての形態を包含する意識があります。

人類の破壊的な行為によって引き起こされたアトランティスの沈没のあと、霊的ハイラーキーの活動は、かなり減速しました。数千年前、人類の霊的指導者たちは、「偉大なる者たち」の時代が始まるまで、長期にわたって物質界から姿を消すことにしたからです。しかし時代を重ねていくうちに、「内なるアシュラム」のメンバーが地上に現れ、その光は進化のきっかけとなりました。彼らのスピリチュアルな教えは世界的な宗教となり、哲学的な探究心は人間のより高い可能性を明らかにしました。各々の個性的な手法で、潜在能力を開発するよう、人類に呼びかけたのです。

この偉大なる方々の中で、キリストの使命はユニークなものでした。彼は人間を生きることで模範を示し、人間の精神を高揚させたのです。他の宗教を生み出した先駆者とは異なり、法律や戒律を教えるためではなく、

人々と共に生きることで、その人間性を通じて、より高い意識状態に到達できる人類の可能性を示すために、彼は遣わされたのです。彼は弟子たちに、それぞれが独自に達成できることは何かを示しました。

キリストは復活したときから、惑星ロゴス、または地球の神といわれる存在からの導きのもとで、霊的ハイラーキーの長としての役割を担ってきました。この役割の責任は、叡智の大師たちと共に、自然の第四王国といわれる人間界を、霊界といわれる第五王国と協力できる存在になるまで進化させることです。これが、来るべき時代の神聖な計画の核心です。長い間、人類は地球生命の仲介者として、下位の自然王国の意識を、上位の霊的王国とつなげ、世界の主の意志と一致させる運命的な役割を担うことが予見されていました。

少し前のこと、惑星ロゴスと内なる評議会のメンバーは、物質界に戻るキリストが新たな使命を遂行するのに必要となる集団が、人類のなかに生まれ、十分に高度な進歩を遂げたと確認しました。人間の魂の神性を体現したキリストは、少数の人々に自分を模倣させるだけでなく、多くの人に観察させることで、意識のより高い段階に到達するための方法と手段を、目覚めた人類に教えるでしょう。

民族主義、裏切り、冷酷さ、放蕩、命を奪う利己主義、貪欲など、時代を超えて現代に至るまで、真我の表現を妨げてきた低次元の人間の歪みと誇大妄想。これらを乗り越える方法を知りたいと望む全ての人々のために、彼は世界教師となるでしょう。すべてが人類のために失われたように思われ、未来に暗雲が立ちこめる魚座の時代の頂点で、そして水瓶座時代の黎明期に、真理の光が人類の心に通路を見つけた時、彼は大いなる仕事を始めるでしょう。



第8章

世界中が待ち望む方

このシリーズの最終章の意図は、キリストの再臨で起こることの提示です。ハイラーキーの最近の著作で予告されているように、キリストが再臨するとき、2つの「足音」を立てるでしょう。一つめの足音は、物質界で人間の肉眼を通して。彼らはキリストの姿を一瞬だけ見ることができます。二つめの足音は、物質とエネルギーの領域を隔てているベールの向こうで行われる予定です。その場所に、彼は人類と共に留まり、人類と地球の進化のための教育—という彼の使命を再始動させます。

最初は、神の子として、あるいは予言の成就のための神の使者として、ほとんどの民族が認識できる姿で登場します。しかし二度目は、「平和なミレニアム」の到来を告げる使命にふさわしい姿になって、地球のエネルギー次元に現れるでしょう。人類では暴動を制御できないと、諦めの念を抱き始めた瞬間、外の世界の騒音が掻き消されて、彼の最初の姿が現れるのです。その時、新世界の吉兆をもたらす、彼の言葉を聞くことになるでしょう。

彼は一人で帰還するのではなく、この日のために長い間準備してきた惑星生命の第五王国、その兄弟の大群を伴って現れます。彼は自分を満たす意志ではなく、地球の進化を司る宇宙存在である惑星主、その進化目的を果

たすため、そして人類の悲願に応答するために。正義をもたらす平和の戦士として、真実の生ける剣として、物質による支配からの解放者として、そして人間の心の愛を再び燃え立たせる炎として、彼はやってくるのです。

彼は一人きりで立ち向かうわけではありませんが、その任務は困難なものです。その光を消すために殺到する闇の勢力を前にして、彼は真っ向から突き進み、その燃える炎は、民意を抑圧して築いた世界の牙城を脅かし、最終的には闇の勢力を盲目にします。彼らは自らの剣での死を覚悟しますが、神の御前では存在できないと察して、すみやかに安らかに逝けないでしょう。

これから起こる大きな戦いを乗り越えるために、私たちはこの話を伝えています。実際には、この紛争は既に始まっていますが、より大きな炎が不可避となる段階に達しています。人類は、意識的であろうとなかろうと、それを予知しています。このシナリオを率直に受け入れる勇気ある人は、一部の地域に制限された紛争で終わり、これまで通りの生活が戻ることを望むでしょう。しかし、魂の光で見る人は、光の勢力が統治することで、「地球の囚人たち」が本質的な光の中へと解放され、新しい日が始まることに気づくでしょう。

ベールのこちら側に集結してくるフォースは、キリストによって統率され、彼らの愛の磁力は人類の内にある光のフォースを引きだします。この緊急事態のなかで起きる人類と神聖なるエネルギーの融合は、時代の大転換の要となり、来るべき時代の前触れとなるでしょう。戦いが激化するにつれて、全世界が待ち望む方を認識し、彼と共に立ち上がる準備ができている人達は、新しい世界の敷居の上に立つのです。そして想像を超えた平和に

遭遇し、顕わになった愛の前で、光は闇を消し去り、恐れによる支配は終わるでしょう。

いま、私たちは新しい夜明けを迎えようとしています。

これらが真実であること、その光に照らされて、今日を生きましょう。
来るべき方の愛に包まれる日を心待ちにして、生きていきましょう。



*** 霊的ハイラーキー** この宇宙のあらゆる次元と、あらゆる意識領域に、最高位から最下位までのハイラーキーが存在しています。宇宙進化の仕組みの中で、その地位を決定するのは、それぞれが定義する意識です。人間の階層構造は、利己主義と欲望に支配されてきました。しかし、私たちの惑星の霊的ハイラーキーは、神聖な知恵と愛によって支配されています。自然界における第5王国—魂の王国のメンバーは、完全に覚醒した存在であり、人としての境地を極め、惑星生命の進化に責任を負っています。

ピラミッドをイメージした梯子を想像してください。その梯子は、意識の進化におけるより高い段階を象徴しています。この霊性の梯子の上昇は、智慧と愛の進化を積み上げること、そして神聖な計画を遂行する責任を受け入れることによって達成されます。人類のスピリチュアルな目覚め、そして高位の光の流入を受け入れることが、現在の大計画の焦点となっています。進化が進むにつれて、霊的ハイラーキーから流入する光は、人類の意識、そして地球上の全ての生命を変容させるでしょう。



[PDF 資料のダウンロード](#)

info@thecomingone.org

[ここをクリック ...](#)

[ここからスウェーデン語のミームやビデオを検索して共有できます](#)